

内山侍從武官長より御下間傳

數ならぬかゝる我身に畏くも
皇御聲のかゝる嬉しさ
その國風を誦じたりと（東江特歌）

春丕釋奠——寺內總督臨

奏樂釋奠は十月午前九時より東小門
 内文廟に於て執行せられたり、正門と
 入れば右に巨大なる太鼓、左に數個
 の鼓あり之と共に左右數名の樂生各
 舞す之れを烈文舞とす、單鼓、拍子
 舞す之れを烈文舞とす、單鼓、拍子

員の背任罪

仁川警察検査部検査員たりし大
北區釜島北町四十三番地永松久
（一）が在職中不正事件暴露する
に仁川警察署に拘留せられ検事
送られたる事に既報の如くなる
々々検事の取調べ終了し三月九日

初日延和

雨あめ天てんの爲ため十二
西にし合がっ併へい大だい相さう攘じやうの人ひと氣き盛さかんに
初はつ日にちの筈はずなりしも十日午後
あり十一日に至いたり前ぜん夜や來きの
たるも尙なほは空くう模も樣やう惡わるしきた

二名凍死一名行衛

南唐は郡城を面し關地自聖
所有朝鮮形百三十石載船
十石を積み船夫四名にて患
寒并浦より京畿道開城郡後
け航行中三月四日午後十二
郡郡寺面寅火里附近の沿岸
たる際暴風の爲め船暗礁に
破損し乗組員一名行方不
知荷は沈没し残り三名

撃退々

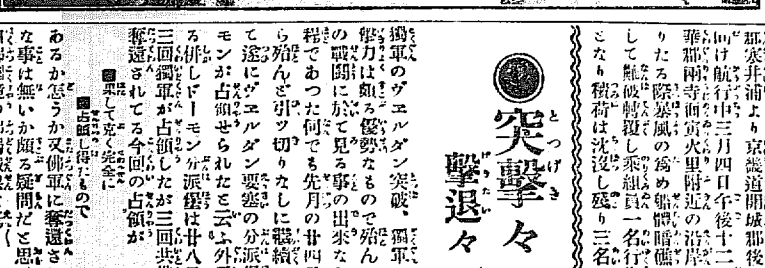
軍のゲエルマン突破、獨軍
力は頗る優勢なもので殆ん
職際に於て見る事の出来な
であつた何より先月の廿四
船二隻引つかりなしに艦續
途にゲエルマン要港の分派
ンが占領せられたと云ふ外
併しドローモンが派兵は廿八
回獨軍が占領したが三回共

無いか頗る疑問だと思

佛國境の倭獨戰線は蜚々と
の如く其の間北はイーブル
面から南はナンシー、ベル
に至る迄各所に隠然たる要
し其申堅としてヴェルダン

豫算は二千圓

膠州町の通りに面して高
さ十尺もある荒木櫓生節の樫使用し



取各町にては空家を荒し

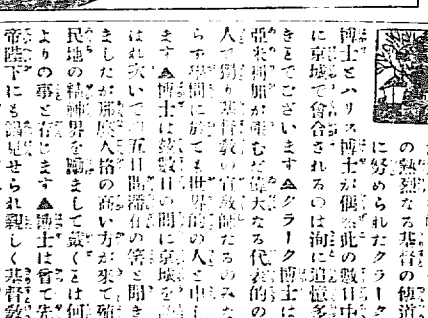
ものにて窃取したる硝子模
或は粉末になし古物屋に賣
の多く大膽なるものは硝子
偽用つ携きて賣却するもの
般空家を所有する向きは

ドモンの死

日井陸軍少將の談　　ザエルダンの要塞がある恐
ルダンの要塞は全要塞中で
な第一であらう
最も堅固な要塞を築いて
ある他は是れ以下に隙のあ
るものもあるけれども其處は
易くても職階上初が少
くても

言はれてゐた事だが獨

が果して眞にヴェルダン突
か其れともヴェルダン突破
けて實は他を
突破する塞制の具に
供しようとするのか



亦之を説くの資格あるなし。然れども富には

常の用意と處世法の宜しきことにより、之を獲與
 るを得べし、此書の説く所は即ちこれ也、文は
 易通俗にして、事例は趣味頗る多し。

京城大車道二丁目
 板倉三郎三〇日

賣捌 京城日報社代理部

持合苗木根廻り一寸以上、同八分、同七分以上
品大田に有之候間直ちに發送出來候

歐
戰
云
霄
記


戰局の重心東方に移る(其他最近戰況頗る詳密)

重石高價購買

鑛石百分の拾より七十三返含有の品高質現金可仕候
鐵山業者にして責任ある方へは代金前渡し可仕候
鐵山所有者へは探礦引渡しの契約にて諸工真及び人

（行發日五十月）
國小亞細亞方面戰局推移圖（新刻色）
△埃蘭の真相と比の關係圖條 文學博士 姉崎正治
△歐大亂と羅馬法王の責任 モーイズ 姊崎正治
△平時に輸入せる煤煙灰一千五百萬本 風間九郎 一稅務文庫
△平野の如く最近の巴里 米田 館

京城貞洞二十五番地(電話三九三八番)
ジョーシアレン 商會

著快の題問▶

 人山庵々得前記
知者
 をの豪の先生強い女々半場強
 を見拔さる粹いものなり裡裡者
 のを者、とすのなひて見の者の
 口を女として得やうばも四交
 點弱界で同赤裸疊際也
 因區橋京市京東大板小
 七二一京東大板小

四一 女藝者上よりの裏
六冊 面を素つば成きて南

評
 癡
 金拾五錢
 切快絶女の前で讀め
 ば嫌わるゝ事請合也
 世の粹客通人は須ら
 一讀の價ある近來
 田書店

[illegible]

富の道をしるべ

四六版八十六頁 定附拾五錢 郵税二錢

此手空拳一戦にして巨萬の富を致すが如きは常
に非ず、天才に非ずんば能くせざる所にして著
も亦之を説くの資格あるなし。然れども富は日
竟物足りて人給し、現在を樂み未來を憂ふも
せざる状態をいふ。此幸福は如何なる人と雖も
常の用意と處世法の宜しきに由り、之を獲取
るを得べし。此書の説く所に即ちこれ也、文は
易通俗にして事例は趣味頗る多し。

京城大平通一丁目
振替三城三〇〇番

京城日報社代理部

紋彌の遺書

大徳寺僧侶、曼陀羅經宗祖開光大師の遠
忌法要中、舊正月二十五日に當り俗に
松見と云ふて、神燈展覧會とツクリの
奇觀を呈するのて古來有名である今
年は一體に崇光が浮きあつて唐の
で非常な人出であつた。御此法要が終
りに近付いた三時頃から姑に手を曳
かれたり、婿と肩を並べたりした嫁さ
んがぞろぞろと境内に繰り込んで來る
昨午正月二十五日から滿一年間
に結婚した嫁さん、嫁はんは勿論、豊里
の地方から客人當日其處の盛裝で真
白に自行を運び立て添ひの駒す、其
で婿まじし込んで参請しては歸る。其
嫁はん七、八組もあらう、先の参詣
者は手を曳かれて來る所儀を一々顔
を見て達んで貰つたためた、既したりしてわ
いのい騒ぐ、誠に羨望無き光景が分
り、遠くまで轡を掛けた／＼の犬籠籠
を曳きつけた。




△下水蓋の金物を盗む 神戸元居留
地商館内にある下水蓋に使用して居
る分の厚い鐵板其他の鐵物が、毎日
來煩々として盗み取られ、その數十
數百の多きに達したが其筋にては目
下犯人の物色中である是は近來鐵物
の騰貴に伴れて泥棒が此の方へ著目
して一ト儲けを企てた結果である

三月十三日九星
舊二月十日巳四
本命七赤 酉 歲大安

[illegible]

胃腸最新

歐米本



胃腸疾患、食慾不振
薬病後の休養期、整

[illegible]

帝都より

近來英字新聞中英語同盟

此冬の暖氣

果して未曾有か

テ此冬は如何と云ふに昨年

の最低である之は恰度四十
五年に亘る冬の十二月に起

匹敵するものである之で見

この暖かいと云ふことは僅かに
観測に就て見るも餘り珍ら

影の影、又は吾人の感じは氣

引續いて寒かつた期間が、大

一、特別の統計法を試みた。

冬季中一日の最低気温が氷點下
た其度數の總合計を見たの

これに倣て米國華盛頓の天氣に
レゾナンス、アッペール、老博

例の雪質を市原越の冬に準て
じ里の冬に比較した今此例に

下つた度數の積算數を見

○であるこの方法で見ても過去

冬は正元年から
八二六と云ふ數を示

之れに次ぐものは明治四十
四十一一年に及ぶ冬の七五九で

冬ふゆの四六二しゆろくに次つぎでは明治四

それは問題の昨年から今年

からで無ければ判然と云へな
月末までの所を比較すると次

年	十一月	十二月	一月	二月
六	一	二	三	四
五	六	七	八	九
四	五	六	七	八
三	四	五	六	七
二	三	四	五	六
一	二	三	四	五

十一月から一月までは孰れ
半數位で二月になつて稍寒

たことを示して居る合計では
利六割位の寒さである斯う云

は過去十箇年間に未だ曾て
すなはちこのすう
 である即ち此數は寒さの實際
あつてもいへ

際の感や影響と適合する様で

[illegible]

大山夏帽子

大山たび

朝鮮に於ける好尚を稽へ時世の推移流行の變遷に
雁行する夏帽子は只

大山の夏帽子あるのみ

朝鮮に於いて最も顧客の嗜好に適する諸條件を具
備する最も精良なる夏帽子を得んと欲せば躊躇な
く直ちに

大山の夏帽子を求めよ

かゝる夏帽子は大山を措いて斷じて他に得べから
ず

獨學新學期開始
農實羽白講義
商實羽白講義
完全無缺類例
大講義錄
世人之等しく
推賞
講義が卓絶せりかを知られ

